

ニートの現状について

神戸大学大学教育推進機構／大学院国際協力研究科助教授 山内乾史

キーワード：NEET とニートの違い、ニートの定義

1. ニートとは何か？

イギリスのNEETについて

1990年代末からイギリスで16～18歳人口の9%にあたる16.1万人が教育にも雇用にも職業訓練にも身を置いていないことが明らかになる。彼らはNEET (Not in Education, Employment, or Training) と呼ばれるようになる。(原(2005)より)

1997年にブレア政権が発足し、同年に社会的排除 (social exclusion) 防止局がスタートする。1999年に同局が Bridging the Gap と題するレポートを提出。NEETが定義される。

◎ブレア政権

福祉国家時代の福祉依存体質からの脱却。「ホームレスには金を恵まない」

自立を促す。自助努力をする人には支援する。その代わりにいわゆる「福祉」は削減。

アクセスの改善と動機付け 職業訓練 雇用の改善だけではなく教育の改善

この視点からはニートは若者であるにもかかわらず福祉の対象になり、膨大な社会的コストが発生する

さらに、社会的排除との関連も指摘されるようになる。

NEETの何が問題か

2. 日本のニートについての議論

日本のニート問題の独自性

玄田・曲沼(2004)以降、広く社会的認知を得る。20世紀後半の職業へのスムーズな移行が21世紀に入る前後から崩壊し始め、フリーター問題が発生。

小杉(2005)によればフリーター＝フリー・アルバイトは1980年代末にアルバイト情報誌が作った言葉であり、「念頭に置いていたのは、何らかの目標を実現するため、あるいは組織に縛られない生き方を望んで、あえて正社員ではなくアルバイトを選ぶ若者」だった。

ところが、1990年代の景気後退後に激増したのは「やむを得ず」型「モラトリアム型」等のタイプが増加。(小杉、同書) さらにニートは求職活動を展開しない無業の若者を指す言葉となっている。

求職活動を展開しない→公的支援の対象外

3. 日本のニートの諸類型

ニートの多様性と類型

4. ニートー何が問題か？

様々な視点からの問題提起と取り組み

<主要参考文献>

浅井宏純・森本和子『ニートといわれる人々 自分の子供をニートにさせない方法』宝島社

玄田有史・曲沼美恵(2004)『ニートーフリーターでもなく失業者でもなくー』幻冬社

玄田有史・小杉礼子労働政策研究・研修機構(2005)『子どもがニートになったなら』NHK出版

原清治(2005)「日本：フリーター、ニート問題と教育計画」山内乾史・杉本均編『現代アジアの教育計画(下巻)』学文社(近刊)

本田由紀(2005)『若者と仕事』東京大学出版会

喜入克(2005)『叱らない教師、逃げる生徒ーこの先にニートが待っているー』扶桑社

小島貴子(2005)『我が子をニートから救う本ーニート或いはニートの予備軍の親たちへー』すばる舎

小杉礼子編(2005)『フリーターニート』けい草書房

三浦展(2005)『下流社会ー新たな階層集団の出現ー』光文社

牟田武生(2005)『だれにでも起きる？ ニート・ひきこもりへの対応』教育出版

二神能基(2005)『希望のニートー現場からのメッセージ』東洋経済新報社

斎藤環(2005)『「負けた」教の信者たちーニート・ひきこもり社会論ー』中央公論社

澤井繁男(2005)『「ニートな子」をもつ親へ贈る本』PHP研究所

鳥井徹也(2005)『フリーター・ニートになる前に読む本ー仕事が見つからない人、仕事が続かない人ー』三笠書房

山田昌弘(2004)『希望格差社会ー「負け組」の絶望感が日本を引き裂くー』筑摩書房

和田秀樹(2005)『ニート脱出ー不安なままでもまずやれる事とはー』扶桑社

『クレスコ』NO.548(2005年9月号)、大月書店

『月刊高校教育』2005年6月号、学事出版